

東部日本語ボランティアネットワーク 第18回定例会議事録

2016年3月12日(土) 14:00~16:00 三島本町タワー

書記(三島:松田)

【参加者】12名 (のびっこ)石井、(三島)松田、(FILS)小川、(たぶんかどんぐり)山田、(沼津)虎谷、相田、(裾野)佐野、吉田、(伊東)福岡、(SIR)古橋、(シルクロ)植月、(個人)西村(以上敬称略)

1. シルクロ:植月

- ・スピーチコンテストを行った
- ・人手不足が問題
- ・課外研修でクレマチスの丘に行く予定

2. 沼津:虎谷

- ・親子日本語ひろばについて・・・今沢と第五で隔週の日本語教室を行っている
今沢には固定の学習者がいるが第五には固定がない
ボランティアは市が広報しているが増えない。休む人も多い
小学校からのボラ派遣の要請があるが、講師が不足している

3. 裾野:佐野

- ・外国人学習者は減っていたが、今年に入りアジア系が少し増えてきた
- ・ボランティアは14~15人と変わらず、交代で週1回、1人月1回ノルマで担当している
- ・20年続けている人も7~8人いる。しぼりがないので続いているのだと思う
- ・4月から受講料を無料にする。イベントでは参加費をもらうことにする

4. 静岡県国際交流協会:古橋

- ・今年度の研修会については、東部の人にお世話になりました
- ・1月のボラセミはブラッシュアップのために行っているが、大盛況となった
- ・来年度も協力できることがあればするので、何かあれば教えてください
- ・外国人県内7万人いる 日本語0の子供が増えている(南米・フィリピン) 定住者も増えている。起る問題も複合的なケースが多いなど複雑化してきている
- ・児童相談・DV・警察沙汰など、たらいまわしにされるケースも増えている
- ・これらの問題は日本語教室で最初に顕著に現れる
- ・全県的にできる活動をしていく予定で現在検討中
- ・新年度になれば何かお知らせできるだろう

5. 伊東:福岡

- ・中学生と小学生の2名に、日本語教室で週4コマ1回90分で教えている
- ・中学生の方は、父親がおらず母は外国人。最初日本語教室に来た後、学校のみに行くようになったが、また日本語教室にも来るようになった
- ・小学生の方は、勉強の意欲がなく、90分の勉強でボラも疲れるようだ
- ・ボランティア不足の問題もある
- ・1月末で670人の学習記録があった(64人いるので一人当たり10回位学習にきている)10ヶ月間のデータ
- ・日本語講師の講習を受けた人が4人いたが、講師登録する人は今回は0だった。講習では4ヶ月間で5回受講(みんなの日本語初級Iは学習終了できている)
- ・敷居が高いためボランティアが増えないのか?(他の参加者より:三島、伊東に比べると沼津は講習・

実習が全部で5回なので、だいぶ敷居が低いと思う)

- ・警察からの要請で、年初に外国人を対象に防災について講習をするので、時間を作り人を集めるように言われた。30分位の時間で受講した。
- ・18年間無料で学習させていたが、1日100円もらうことにした。ただし強制ではない
- ・3/20伊東市でイベント「フェスタ」が行われる
- ・レベルが高く、年齢も高い。ずっと同じ人が続けてきているので高齢化している。講習については設立メンバーが決めたシステムが続いている。

6. 三島：松田

- ・国際交流室がやっている講座を受けた人が、会員として入り教えることになっている講座を受けていない人、その他の日本語の講座を受けていない人は教えられない
- ・今年度は、おしゃべり会として
 - ①100円ショップで買い物して説明する②地震について③習字④フラアルゴリズムを開き、習字で好きな字を学習者が自分で調べるなどの工夫をしたり、学習者と講師が一緒になって、日本語を使いながら楽しむ企画をした。
- ・毎年12月にスピーチ大会をしており、そちらも楽しみながら日本語を覚えるように工夫した。1ヶ月しか学んでいない学習者は読めないなので原稿を作ったものを覚えて、そらで上手に話して、講師を驚かせた。
- ・会員間の交流・情報交換としてサロンを開催している
- ・どれも、いつも同じメンバーの参加になってしまっているなので、次年度は広く参加してもらえるように工夫しようと思う
- ・会員のステップアップ講座を開催した。大変好評だったので、次年度もリクエストがきている。
- ・新入会員は8名～9名あり、現在は新会員も入れると会員約60名となっているが、学習者が40名、今は減って31名となり少ないので、教えていない講師が多くなった。
- ・グループ学習の案がでていたが、学習者のレベルが合わずまた、人数が集まらず実施できなかった。
- ・会員から情報収集して台帳を作成し、学習者と講師のコーディネートをする際の資料としてデータ管理し、活用している。便利になり申し込みがあれば、早い時で3日位で講師を決められるときもある。

7. たぶんかどんぐり：山田

- ・6年一緒に活動してきた副代表がキューバに移住してしまい、(スペイン語が話せる)副代表を通じて広がっていた地域のペルー人とのつながりが途切れてしまった。
- ・子供支援に力をいれている。教室に来られない子には、家庭教師で対応している。
- ・隣の地区のNPOが親子支援で活発に活動しているので、親子での問い合わせがあったら、そこを紹介している。

8. 裾野：吉田

- ・定着してくれる学習者が少ない
- ・学習者は、ききとり、よみとりはできるが、話す、書くが難しい人が多い
- ・日本の季節の行事について紹介、説明し、学習者には自国について話してもらう
- ・今はスマホを持っているので、いつでも調べられて便利だ
- ・学習者がききたい質問を受け答えるようにしている

9. のびっこ：石井

- ・異文化体験講座を開いた(全3部)①お弁当の中身は世界の食材②世界の民族衣装を着てみよう③西アフリカのジャンベを弾いてみよう

- ・防災教室と教育講演会を開いた（講師＝アルベルト松本氏）
- ・毎週土曜日ののびっこクラブに伊豆の国市や清水町からも通ってくる。放課後学習支援教室（クラスぽよ）は今年度、東小で実施した。
- ・三島長稜高校の大学生学習サポーターとして、4月から日大アモールのメンバーが参加予定。
- ・中学校に入り、不登校になる子どもが増えている。複合的な問題を抱えている場合が多く、行政や専門家と一緒に活動するようになってきている。
- ・子供食堂が三島でも始まる予定
- ・外国語観光ガイドが制度化される予定。日本語の勉強ができなくても自国のことばができる外国人の高校生なども参加できるのではないかと考えている。
- ・日大で日本語教員養成プログラムが開講される。社会人に開放されるかどうかなど、関心のある方は今後のアナウンスに注目してください。

10. 三島市在住。富士宮で日本語の教師をしている：西村久美子

- ・個人で活動している
- ・遠隔教育やeラーニングに興味があり、始めたら、いろいろな出会いが広がっている。
- ・シリアに住んでいる人とスカイプで日本語の話し相手になっている
- ・コロンビアの医師に、仕事として日本語を教えている。
- ・日本語教師の募集は増えている。やりたい方がいたら紹介してほしい。

11. 富士：小川

- ・イギリス人の生徒N1を目指す人を教えている 手作りの和和辞典を作った やさしい日本語に置き換えて、喜ばれている
- ・外国語の問診票として使える書式があるので紹介する www.kifjp.org/medical

12. Nice：相田

- ・学習者は20名位の状態が続いている。比較的若い新人講師が増えている。全5回の研修を受けてから登録する。登録を認めていいか悩む人が時々いる。その都度、話し合っていて決めている
- ・遅刻常習者がいて困ることがある。
- ・この4月から正副部長が変わり新体制になる。2年ごとによって変わっており、毎度引き受けていただくのに難航するが、今回はスムーズに決まった
- ・教え方について、入門グループの教え方について課題が挙がったことをきっかけに、改善案の検討を進めている。同グループ内でのひらがな読み能力に差があるときに、お互いにストレスにならないか懸念があるという課題に対し、グループ進度に対し読み能力に基準を設けてはどうかなど、アンケート含め色んな選択肢を検討している。部会全体の合意を基に進めていくという流れにすることが出来た。
- ・新人講師の研修について、担当講師の割り当てに事務局が背負う負荷が大きいことが、あらためてわかった。負荷を減らす対応として基準をやや緩和した。

以下、事前にメールで提供して下さった内容です。（定例会で共有済み）

○シルクロ：田中

こちらは、先日9回めのスピーチフェスティバルが終了し、今年は10ヶ国20人がスピーチをして、楽しい1日となりました。盛況に終わることができて、ほっとしています。

相変わらずの人手不足は続いています、その中でなんとか清水町教室、日曜教室をやっています。個人の生徒さんも、私1人がほぼ教えている状況ですが、その中でできるだけのことをやっています。

東部ネットのみなさんもそれぞれの活動で手一杯だとは思いますが、もし関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ご連絡いただければ、と思います。

日曜日には、クラスのみinnでヴァンジ庭園美術館に行くなど、課外活動も行っています。来月早々には、長沢春祭りに出店の予定です。

○日本語話そう会 (伊豆の国市) : 久木野

伊豆の国市国際交流協会の、日本語話そう会、は、その後も毎週火曜日7:30-9:00、葦山時代劇場の会場で続いています。

最近、近隣のインドネシアの技術研修生が、仕事が多忙のため、出席がめっきり減っております。また、ALTの先生たちもほとんど参加がなくなりました。ALTについては、年度初めには参加が多いのですが、夏休み以降は参加が減る、というパターンが例年続いています。ある程度、日本や仕事になれると、自分たちで動くようになるためです。

その代わりではありませんが、最近、ベトナムの方たちが増えてきました。技術研修生(=労働力)だけではなく、エンジニアの方も日本にきており、話そう会に参加があります。

また、日本語の勉強だけではなく、例えば今月13日には、いちご狩りなども企画して、交流の場を持つようにしています。

最近、三島からも当会にきて、外国の方に教えてくれるボランティアの方たちもあり、助かっているところです。

(身近な内容は、石井さんや、渡辺さんもお存じです)。

日本語とは少し異なりますが、葦山の反射炉が世界遺産に登録になり、外国の訪問客に対応するために、協会として、英語案内のボランティア活動もやっております。

○のびっこ : 渡辺

個人的には、1月17日にのびっこで開催したイベントに60名もの参加があり、助成金申請の段階から関わった苦労が報われました。後半の、先生と保護者との懇談会では、スペイン語による闊達なトークが繰り広げられ、満足度の高い場になったようです。

と同時に、この地域では、こういう機会や情報やが足りないことも痛感させられました。

これからの課題だと思っています。

—以上—

(内容は全員に確認済み)